

京セラの研究開発の方向性と知的財産部門の活動

神 野 純 一*



1. はじめに

京セラは1959年の創業以来、ファインセラミック技術をベースに新技術・新製品開発、新市場創造を進めてきました。また、素材・部品からデバイス、機器、システム、サービスに至るグループ内の経営資源を活用し、事業の多角化により成長を図るとともに、デジタルコンシューマ機器や産業機械をはじめとするさまざまな市場において、多種多様な製品の開発・製造・販売及びサービスをグローバルに提供しています。

2. 研究開発の方向性

当社は、各部門での新技術開発、新製品開発に加え、グループ内の経営資源の融合により将来の核となる事業の創出に取り組んでいます。特に今後の成長が見込まれ、あらゆる人やモノをつなぐ情報通信市場、ICT化が急速に進む自動車関連市場、地球の環境保全に貢献する環境・エネルギー市場、人々の安心・安全な暮らしを支える医療・ヘルスケア市場の4つを重点市場に定め、付加価値の高い新技術・新製品の研究開発に注力しています。また、IoTの拡大により新たな事業機会の創出が見込まれることから、ハードウェア主体の既存ビジネスにソフトウェアを融合させるためのソフト開発強化に取り組んでいます。

3. 知的財産部門の活動

京セラグループは、自社の研究開発の成果を知的財産権で保護し、併せて他者の知的財産権を尊重することを基本方針としています。当社は、知的財産管理指針を制定するとともに、知的財産の権利化と維持管理、知的財産権のライセンス交渉などを円滑に行うため、主な事業所・工場にリエゾンと呼ばれる知的財産担当者を配置し、知的財産部門と連携しながらより事業に密着した知的財産権の保護・活用に努めています。さらに、事業のグローバル化に合わせ、米国、中国、ドイツの3箇所に知財活動の拠点を設け、地域に密着した知財活動を展開しています。また、米国、欧州、中国、日本の各国で特許取得にご協力いただいている特許事務所様と、京セラグループ各社の知的財産部員による「グローバルパートナーシップ会議」を定期的を開催しています。この会議では、特許出願明細書のあり方や特許取得に向けた対応方法について、具体的な事例にもとづく議論を行って、ガイドラインの策定や情報共有の改善を進めています。

当社の知的財産部門は、特許の権利化を行う知財部、ライセンス交渉を担当するライセンス部、知財の活用を促進するIP戦略推進部、商標、意匠、著作権の管理によりブランド価値の維持向上を図る

* 京セラ株式会社 執行役員上席 法務知的財産本部長 Junichi JINNO

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ブランド管理部の大きく4つの部門で構成されています。ここでは、特にIP戦略推進部とブランド管理部の役割について触れさせていただきます。

IP戦略推進部は、それぞれの事業部門のビジネス戦略にIP戦略を融合させ、これを事業部と共に実施することが主な役割です。そのためには、事業に密接に関連した特許が必要であり、戦略的な研究開発や特許出願が要望されることとなります。従ってIP戦略推進部は、知的財産部門間だけでなく、事業部門間にもまたがって活動範囲を広めています。「事業を守り、事業を強くする知財活動に徹する」を活動指針に掲げ、単に特許ライセンス収入を目指すのではなく、事業そのものを積極的に後押しすることにより、事業収益に貢献する知財活動を推進しています。

次に、ブランド管理部の役割の一つであります、模倣品対策について御紹介します。京セラグループでは、模倣品の被害からお客様を守り、安心して製品をお使いいただけるよう、世界各国でさまざまな取り組みを行っています。世界中の通販サイトあるいは流通現場において模倣品の監視調査を実施しています。模倣品を販売する業者に対しては警告や行政摘発を行い、今後模倣品を取り扱わない旨の誓約を求めるとともに、在庫の破棄、仕入先の開示などを要請し、模倣品の流通拡大を防止しています。また、トナーコンテナなど一部の製品については、真がん判定用ホログラムシールを採用し、純正品と模倣品を判別しやすくするなどの改善を行っています。

さて、当社は、世界的な情報サービス企業でありますクラリベイト・アナリティクス社が選定する「TOP 100 グローバル・イノベーター 2016」を受賞しました。同賞は、クラリベイト・アナリティクス社が保有する特許データをもとに、知財・特許動向を独自の基準で分析し、革新的な取り組みで世界をリードしている企業や研究機関として100社を選出するものです。当社は、同賞の選考基準である「特許数」「特許の成功率（登録率）」「グローバル性」「引用における特許の影響力」の4項目のうち、「特許の成功率」の高さに加え、「グローバル性」がより向上したとの評価をいただき、3年連続の受賞となりました。大変な名誉であり、社員の励みとなりました。これは、特許出願の方針として、件数至上主義から脱却し質の高い特許ポートフォリオの構築を目指した結果の表れと捉えています。今後もより積極的に知財活動に取り組み、自社の事業の発展を支えるとともに、我国の技術・産業の進歩発展に少しでも貢献出来るよう、努力して参ります。

4. おわりに

当社は、お客様に喜んで頂ける製品やサービスを提供する、「お客様第一主義」を最も大切なテーマととらえています。お客様にご満足いただくためには、時代の変化に即応するスピード感を持ち、京セラグループの有する技術力と経営資源を有機的に結びつけ、新たな価値を創造し続けなければなりません。企業は人。どんな技術や製品・サービスもすべては人で決まります。社員一人ひとりが夢を抱き、いきいきと働き、自ら立てた目標を確実に達成していくことで、お客様に新たな価値を届け続ける企業を目指して参ります。